

最適化数学 第9回

[今回の項目]

- ① 復習；線形計画問題， 単体法
- ② ピボット

線形計画問題

$$\begin{array}{lll} \text{(P)} & \text{最小化} & -x_1 - 2x_2 - 3x_3 \\ & \text{制 約} & x_1 + x_3 \leq 2 \\ & & 2x_1 + x_2 + 2x_3 \leq 5 \\ & & 3x_1 + x_2 + 2x_3 \leq 6 \\ & & x_1, x_2, x_3 \geq 0 \end{array}$$

まず、問題 (P) を **スラック変数** と呼ばれる x_4, x_5, x_6 を導入して次の同値な問題に変形する。

$$\begin{array}{llll} \text{最小化} & -x_1 - 2x_2 - 3x_3 & & \\ \text{制 約} & x_1 + x_3 & = 2 & \\ & 2x_1 + x_2 + 2x_3 & = 5 & \\ & 3x_1 + x_2 + 2x_3 & = 6 & \\ & x_1, x_2, x_3, \textcolor{red}{x_4}, \textcolor{red}{x_5}, \textcolor{red}{x_6} \geq 0 & & \end{array}$$

2. 辞書を作る

スラック変数を導入した問題の制約式でスラック変数 x_4, x_5, x_6 を左辺に残し、残りを右辺へ移項し、目的関数を z とおく。

(辞書 1) **最小化** $z = -x_1 - 2x_2 - 3x_3$
 制 約 $x_4 = 2 - x_1 - x_3$
 $x_5 = 5 - 2x_1 - x_2 - 2x_3$
 $x_6 = 6 - 3x_1 - x_2 - 2x_3$
 $x_1, x_2, x_3, x_4, x_5, x_6 \geq 0$

左辺に現れる変数 x_4, x_5, x_6 を 、右辺に現れる変数 x_1, x_2, x_3 を と呼ぶ。ここで、

基底変数は、目的関数の変数に含まれていない

ことに注意しよう。この形を線形計画問題の と呼ぶ。

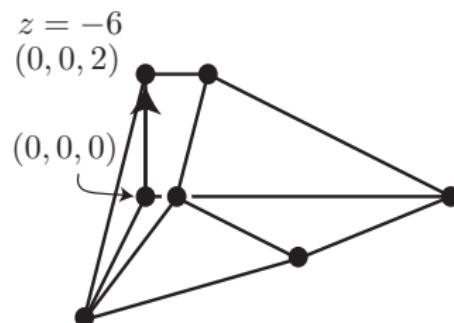
3. 実行可能基底解を求め, 4. 解の更新を行う

(辞書 1) **最小化** $z = -x_1 - 2x_2 - 3x_3$
 制 約 $x_4 = 2 - x_1 - x_3$
 $x_5 = 5 - 2x_1 - x_2 - 2x_3$
 $x_6 = 6 - 3x_1 - x_2 - 2x_3$
 $x_1, x_2, x_3, x_4, x_5, x_6 \geq 0$

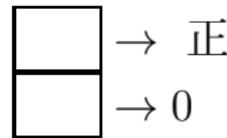
まず更新ルール (i) より, 目的関数 z で, 係数が負である非基底変数 x_3 を選ぶ. ここで, $x_3 = t$, その他の非基底変数 $x_1 = x_2 = 0$ とおくと, 以下を得る:

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \\ x_5 \\ x_6 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & & \end{bmatrix}$$

5. 辞書の更新



[非基底変数]
[基底変数]



$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \\ x_5 \\ x_6 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ t \\ 2-t \\ 5-2t \\ 6-2t \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} \end{bmatrix}$$

より, □と□を入れ換える;

(辞書 2)

**最小化
制 約**

$$\begin{aligned} z &= -6 + 2x_1 - 2x_2 + 3x_4 \\ x_3 &= 2 - x_1 - x_4 \\ x_5 &= 1 - x_2 + 2x_4 \\ x_6 &= 2 - x_1 - x_2 + 2x_4 \\ x_1, x_2, x_3, x_4, x_5, x_6 &\geq 0 \end{aligned}$$

6. 反復

(辞書 3) **最小化**
$$\begin{aligned} z &= -8 + 2x_1 - x_4 + 2x_5 \\ \text{制 約} \quad x_3 &= 2 - x_1 - x_4 \\ x_2 &= 1 + 2x_4 - x_5 \\ x_6 &= 1 - x_1 + x_5 \\ x_1, x_2, x_3, x_4, x_5, x_6 &\geq 0 \end{aligned}$$

(辞書 4) **最小化**
$$\begin{aligned} z &= -10 + 3x_1 + x_3 + 2x_5 \\ \text{制 約} \quad x_4 &= 2 - x_1 - x_3 \\ x_2 &= 5 - 2x_1 - 2x_3 - x_5 \\ x_6 &= 1 - x_1 + x_5 \\ x_1, x_2, x_3, x_4, x_5, x_6 &\geq 0 \end{aligned}$$

目的関数のすべての変数の係数が零以上なので、最適解は

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \quad \\ \quad \\ \quad \end{bmatrix} \text{ のとき, 最適値は } \boxed{\quad} \text{ をとる.}$$

ピボット

(辞書 1)

最小化
制 約

$$\begin{aligned}z &= -x_1 - 2x_2 - 3x_3 \\x_4 &= 2 - x_1 - x_3 \\x_5 &= 5 - 2x_1 - x_2 - 2x_3 \\x_6 &= 6 - 3x_1 - x_2 - 2x_3 \\x_1, x_2, x_3, x_4, x_5, x_6 &\geq 0\end{aligned}$$

単体法のより簡便な記法を紹介する。辞書 1 を次のように書くこととする：

$$(D1) \quad \begin{array}{r} z = -x_1 - 2x_2 - 3x_3 \\ \hline x_4 = 2 - x_1 - x_3 \\ x_5 = 5 - 2x_1 - x_2 - 2x_3 \\ x_6 = 6 - 3x_1 - x_2 - 2x_3 \end{array}$$

ここで、 $x_1, \dots, x_6 \geq 0$ はどの辞書でも変わらないので省略する。
増加させる非基底変数として x_3 を選ぶと、□ 始めに 0 になる
ので、左辺に □ がある式の x_3 を **ピボット** と呼び、丸で囲む。

このピボットに注目すると、制約第 2 式の右辺から x_3 を消去するためには、

$$\begin{array}{r} x_5 = 5 - 2x_1 - x_2 - 2x_3 \\ (-2) \times \textcolor{red}{x_4} = 2 - x_1 - x_3 \\ \hline x_5 - 2\textcolor{red}{x_4} = 1 - x_2 \\ \downarrow \\ x_5 = 1 - x_2 + 2\textcolor{red}{x_4} \end{array}$$

と計算すればよい。このような計算を他の式にも適用して、新しい辞書を得る。

$$\begin{array}{l} (\text{D2}) \quad \begin{array}{r} z = -6 + 2x_1 - 2x_2 + 3x_4 \\ \hline x_3 = 2 - x_1 - x_4 \\ x_5 = 1 - x_2 + 2x_4 \\ x_6 = 2 - x_1 - x_2 + 2x_4 \end{array} \end{array}$$

(D2) の右辺から消去する変数を $\textcolor{blue}{x_2}$ とする。 x_2 を増加させたとき、始めに 0 に達する基底変数は なので、ピボットが決まり、そこに丸をつける。右辺から x_2 を消去すると、新しい辞書は

$$(D3) \quad \begin{array}{r} z = -8 + 2x_1 - x_4 + 2x_5 \\ \hline x_3 = 2 - x_1 - x_4 \\ x_2 = 1 + 2x_4 - x_5 \\ x_6 = 1 - x_1 + x_5 \end{array}$$

となる. (D3) で右辺から消去する変数を x_4 とする. x_4 を増加させたとき, 始めに 0 に達する基底変数は なので, ピボットがきまり, そこに丸をつける. 新しい辞書は

$$(D4) \quad \begin{array}{r} z = -10 + 3x_1 + x_3 + 2x_5 \\ \hline x_4 = 2 - x_1 - x_3 \\ x_2 = 5 - 2x_1 - 2x_3 - x_5 \\ x_6 = 1 - x_1 + x_5 \end{array}$$

である. ここで目的関数の変数の係数がすべて 0 以上であるので, 単体法が終了し, 最適値 -10 を得る.

略記法

$$(D1) \begin{array}{rcl} z & = & -x_1 - 2x_2 - 3\textcolor{blue}{x}_3 \\ \textcolor{red}{x}_4 & = & 2 - x_1 \quad - \textcolor{brown}{x}_3 \\ x_5 & = & 5 - 2x_1 - x_2 - 2x_3 \\ x_6 & = & 6 - 3x_1 - x_2 - 2x_3 \end{array}$$

↓

$$(D2) \begin{array}{rcl} z & = & -6 + 2x_1 - 2\textcolor{blue}{x}_2 + 3x_4 \\ x_3 & = & 2 - x_1 \quad - x_4 \\ \textcolor{red}{x}_5 & = & 1 \quad - \textcolor{brown}{x}_2 + 2x_4 \\ x_6 & = & 2 - x_1 - x_2 + 2x_4 \end{array}$$

↓

$$(D3) \begin{array}{rcl} z & = & -8 + 2x_1 - \textcolor{blue}{x}_4 + 2x_5 \\ \textcolor{red}{x}_3 & = & 2 - x_1 - \textcolor{brown}{x}_4 \\ x_2 & = & 1 \quad + 2x_4 - x_5 \\ x_6 & = & 1 - x_1 \quad + x_5 \end{array}$$

↓

$$(D4) \begin{array}{rcl} z & = & -10 + 3x_1 + x_3 + 2x_5 \\ x_4 & = & 2 - x_1 - x_3 \\ x_2 & = & 5 - 2x_1 - 2x_3 - x_5 \\ x_6 & = & 1 - x_1 \quad + x_5 \end{array}$$

よって, $(x_1, x_2, x_3) = (0, 5, 0)$ のとき, 最小値 -10 を取る.

例題

**最小化
制 約**

$$\begin{aligned} & -x_1 - 2x_2 \\ & x_1 + x_2 \leq 3 \\ & -2x_1 + x_2 \leq 2 \\ & x_1, x_2 \geq 0 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (D1) \quad & z = -x_1 - 2\textcolor{blue}{x_2} \\ & \frac{x_3 = 3 - x_1 - x_2}{\textcolor{red}{x_4} = 2 + 2x_1 - \textcircled{x}_2} \\ & \Downarrow \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (D3) \quad & \Downarrow \\ & \frac{z = -\frac{17}{3} + \frac{5}{3}x_3 + \frac{1}{3}x_4}{\begin{aligned} x_1 &= \frac{1}{3} - \frac{1}{3}x_3 + \frac{1}{3}x_4 \\ x_2 &= \frac{8}{3} - \frac{2}{3}x_3 - \frac{1}{3}x_4 \end{aligned}} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (D2) \quad & z = -4 - 5\textcolor{blue}{x_1} + 2x_4 \\ & \textcolor{red}{x_3} = 1 - 3\textcircled{x}_1 + x_4 \\ & x_2 = 2 + 2x_1 - x_4 \end{aligned}$$

よって、最小解は $(\frac{1}{3}, \frac{8}{3})$ で、最小値は $-\frac{17}{3}$ となる。

練習問題

- (1) **最小化制約**
- $$\begin{aligned} & -4x_1 - 5x_2 \\ & x_1 + x_2 \leq 10 \\ & 3x_1 + 7x_2 \leq 42 \\ & x_1, x_2 \geq 0 \end{aligned}$$
- (2) **最小化制約**
- $$\begin{aligned} & -2x_1 + x_2 - x_3 \\ & 2x_1 + x_2 - 3x_3 \leq 40 \\ & x_1 + x_3 \leq 25 \\ & 2x_2 + 3x_3 \leq 32 \\ & x_1, x_2, x_3 \geq 0 \end{aligned}$$

例外処理

さて、前節の例では特別な問題なしに単体法を適用できたが、実際には次の 4 つ例外的な場合がある：

- (1) 問題が非有界 (2) 辞書の退化
- (3) 辞書の巡回 (4) 初期点が実行不可能

(1) 問題が非有界

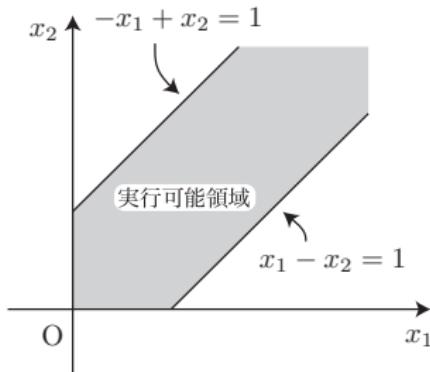
**最小化
制 約**

$$-x_1$$

$$x_1 - x_2 \leq 1$$

$$-x_1 + x_2 \leq 1$$

$$x_1, x_2 \geq 0$$



$$(D1) \begin{array}{l} z = -x_1 \\ x_3 = 1 - \textcircled{x}_1 + x_2 \\ x_4 = 1 + x_1 - x_2 \end{array}$$

$$(D2) \begin{array}{l} z = -1 - x_2 + x_3 \\ x_1 = 1 + x_2 - x_3 \\ x_4 = 2 - x_3 \end{array}$$

ここで、 x_2 の値はいくらでも できる。よって、目的関数値をいくらでも できるので、最適解は存在しない。このような問題を **非有界な線形計画問題**、または単に **非有界な問題** と呼ぶ。

(2) 辞書の退化

**最小化
制 約**

$$-x_1$$

$$x_1 - x_2 \leq 0$$

$$x_1 + x_2 \leq 2$$

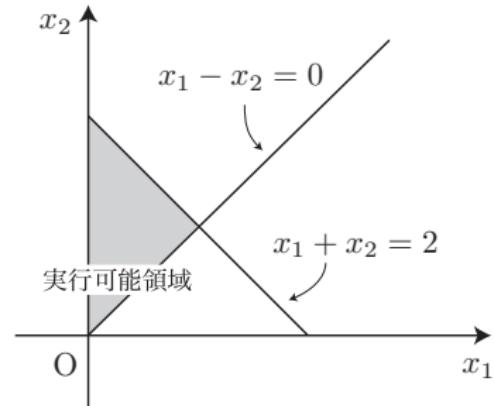
$$x_1, x_2 \geq 0$$

$$(D1) \quad \begin{aligned} z &= -x_1 \\ x_3 &= -\textcircled{1} + x_2 \\ x_4 &= 2 - x_1 - x_2 \end{aligned}$$

このような辞書を した辞書と呼ぶ。

x_3 と x_1 を入れ換えて辞書を更新する。

$$(D1) \quad \begin{aligned} z &= -x_2 + x_3 \\ x_1 &= +x_2 - x_3 \\ x_4 &= 2 - \textcircled{2} + x_3 \end{aligned}$$



$$(D2) \quad \begin{aligned} z &= -1 + \frac{1}{2}x_3 + \frac{1}{2}x_4 \\ x_1 &= 1 - \frac{1}{2}x_3 - \frac{1}{2}x_4 \\ x_2 &= 1 + \frac{1}{2}x_3 - \frac{1}{2}x_4 \end{aligned}$$

(3) 辞書の巡回

退化した辞書が無限に続く場合がある。このような現象を **巡回** と呼ぶ。巡回を避けるには、**ブランドのピボット選択法** を用いればよい：

- ① 解の更新ルール (i) で非基底変数を選ぶときに、添字が最小のものを選ぶ
- ② 選んだ非基底変数を増やすことで 0 になる基底変数が複数ある場合、それらの中で添字が最小のものを選ぶ。

(4) 初期点が実行不可能

**最小化
制 約**

$$\begin{aligned} & -x_1 \\ & x_1 - x_2 \leq -1 \\ & x_1 + x_2 \leq 2 \\ & x_1, x_2 \geq 0 \end{aligned}$$

$$(D1) \quad \begin{aligned} z &= -x_1 \\ x_3 &= -1 - x_1 + x_2 \text{ (*)} \\ x_4 &= 2 - x_1 - x_2 \end{aligned}$$

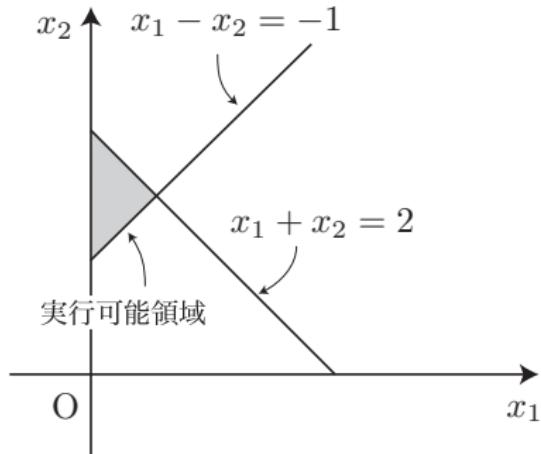
$(x_1, x_2) = (0, 0)$ が実行不可能.

以下の問題を考える：

(A)

**最小化
制 紺**

$$\begin{aligned} z &= x_5 \\ x_5 &= 1 + x_1 - x_2 + x_3 \\ x_4 &= 2 + 2x_1 - x_2 \\ x_1, x_2, x_3, x_4, x_5 &\geq 0 \end{aligned}$$



ここで、目的関数は

$x_5 = x_3 - (-1 - x_1 + x_2)$
である。 x_5 の右辺は、定数項が正に
なるように (D₁) の制約第 1 式 (*)
の両辺の差をとる。すると x_5 は、
等式 (*) の両辺の非負の誤差を表す。

$$(A1) \quad \begin{array}{l} z = 1 + x_1 - x_2 + x_3 \\ x_5 = 1 + x_1 - \textcircled{x}_2 + x_3 \\ x_4 = 2 - x_1 - x_2 \end{array}$$

$$(A2) \quad \begin{array}{l} z = \quad \quad \quad + x_5 \\ x_2 = 1 + x_1 + x_3 - x_5 \\ x_4 = 1 - 2x_1 - x_3 + x_5 \end{array}$$

となり、最適解 $(x_1, x_2, x_3, x_4, x_5) = (0, 1, 0, 1, 0)$ 、最適値 0 を得て、問題 (A) に対する単体法が終了する。 (A) に $x_5 = 0$ の実行可能解があるということは、(D1) の制約式を満たす解が存在することである。

最適値が正ならば、(D1) の制約（特に $(*)$ ）を満たすような (x_1, x_2) は存在しないことになる。

ここで、(A2) の制約で $x_5 = 0$ とおき、(D1) の目的関数を用いて、辞書

$$(D2) \quad \begin{array}{l} z = -x_1 \\ x_2 = 1 + x_1 + x_3 \\ x_4 = 1 - 2x_1 - x_3 \end{array}$$

を作成すると、この辞書に対して単体法が実行できる。